

「とやの」とは、福井弁で「どうですか?」「いかがですか?」という意味で、ボランティア活動など「ちょっと始めてみませんか?」という思いが込められています。

2015年2月号(第24回)

課題共有で『地産ジビエ』 動きだす

～鳥獣害対策と食文化をつないだ「ジビエ料理試食会」レポート～

●特別な夜

1月28日(水)の夜、サバエ・シティーホテル8階のイタリアンレストラン「イル・ヴィゴレー」では、次々と料理の大皿が並べられ始めました。

市内で鳥獣害対策のために捕獲されたイノシシを、ジビエ(野生の鳥や獣の食材)として活用し、洗練された料理として試食する「地産ジビエ 美味の夕べ」の始まりです。

ただ、この会は、高級食材でもあるイノシシの肉を堪能するためだけの集まりではありません。

鳥獣害対策に汗を流してきた地域の皆さんと、駆除で捕らえられた動物たちを“地域資源”として活用することを模索してきた行政、そして、地産地消をポリシーとするサバエ・シティーホテルのシェフたちの熱意が集約され、ひとつの成果として花開いた“特別”な瞬間でもあったのです。

メイン料理のひとつ
『一口ステーキ 鯖江の桜チップの軽い燻製』



料理の質問に答える
碓子総料理長(左)と
河端シェフ(右)



創作メニューの数々に
参加者の期待もふくらむ

●渾身の料理たち

料理に供されたのは比較的若いオスとメスの2頭。野生のため、肉質も味も1頭1頭に個性があり、また、その部位によっても適した調理方法が違います。

野菜のほとんども鯖江産や福井県産。

シェフたちが持てるセンスと技を注ぎ込んだ創作料理の数々は、「野趣あふれる」というよりは、深い旨味と色、香り、完成度で、参加者の五感を満たしてくれたようです。

●課題の共有が活路をひらく

試食後には、農産物への鳥獣被害のレクチャーと、その解決策として里山エリアでの賑わいを取り戻すためのアイデアを考える時間がとられました。おいしいジビエ料理の数々にも、その背景には苦悩する

地域の課題が横たわっているからです。

ジビエ料理の魅力と価値が多くの人に伝われば、新しい産業として回り始める可能性もありますが、そのために必要な安定的な供給システムや地元の食肉処理施設も、まだ鯖江にはありません。

今回の食材も、下新庄町の皆さんや市外の処理施設の協力があればこそ入手できたものでした。

地域課題の解決策は、そう簡単に実現できないものも多いでしょう。それでも、新しいアイデアを真剣に考えた時間、確かに参加者の皆さんは鳥獣被害と資源活用の課題を知り、共有していたはずです。

今回のように、魅力ある“食”を手がかりに、多くの立場の人たちが地域の課題を共有していくこと。

それも、解決のための大切なステップになると感じさせてくれた、貴重なイベントでした。



編集・お問い合わせ 「とやのメール」は、鯖江市との協働事業で発行しています。

特定非営利活動法人 さばえNPOサポート

〒916-0024 鯖江市長泉寺町1丁目9-20 鯖江市民活動交流センター内

TEL : 0778-54-7055 FAX : 0778-54-7058

Email : info@sabae-npo.org



♥誰でも気軽に使える情報発信♥

鯖江市内の市民団体ならばイベントやお知らせを掲載できます。

ホームページ : <http://www.sabae-npo.org/>



えきライブラリーtetote(テトテ) JR鯖江駅2階にオープン!!

1月9日(金)、『えきライブラリーtetote(テトテ)』がグランドオープンしました。
「小さな種・こころ」と「Comfortさばえ」、2つのNPO法人が協働で運営する、とってもおしゃやかなカフェで、市の図書館の本を読んだり借りたりすることもできます。

3月には、ライブや映画上映会などのイベントを行う「live space Comfort(ライブスペース コンフォート)」もオープンする予定です。

駅を利用する人たちだけでなく、市民のみなさんも気軽に集う場となってゆくといいですね。



店内の空間は落ち着いた雰囲気
ゆったりとした時間を過ごせる



定番から個性派まで
ドリンク類もこだわりのライブカフェ



隠れた人気メニュー「越前おろしそば」
手打ちのそばに絶品のタンガからむ



ある日のスタッフ集合写真
真剣さと、きめ細かな心配りが感じられた



若きパティシエの
上品なスイーツもオススメ

提案型市民役事業 立待地区 市民まちづくり応援団養成講座 楽しもっさ!! まちづくり

市内の各地区を対象に、まちづくりの“核”となる人材育成を目指す「市民まちづくり応援団養成講座」。1月21日(水)からは、4地区目となる立待地区を舞台に開催中です!

1回目はYouTube動画でも話題になった、立待地区まちぐるみの『恋するフォーチュンクッキー』ムービーの仕掛け人を含め、まちづくりの実践者たちのトークセッション。

2回目からは、講師を招いてのワークショップシリーズ。全6回のプログラムで、地域活性化のコツとアプローチなどを体験し、学びます。

▼1回目のワンシーン
立待地区の皆さんがパフォーマンスした『恋チュン』ムービー鑑賞中



▲2回目「ワークショップ入門」講師の漆崎由美氏。体と頭を使う内容に、受講者も盛り上がりました!